

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和6年3月25日

事業所名 ちびっこタイム品川

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			
	②	職員の配置数は適切である	100%			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%			
適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	100%			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた 点等を共有している	100%			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	100%			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	100%			
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者 が参画している	100%			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っている	100%			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制 を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校 (小学部)との間で、支援内容等の情報共有 と相互理解を図っている	80%	20%		保護者に対してアドバイス等は行っていますが、 学校等との情報共有は今の制度の中では困 難だと考えます。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事 業所、発達障害者支援センター等の専門機関 と連携し、助言や研修を受けている	100%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	80%	20%	プレゼントなどをいただき交流を図っている。	コロナ禍以降自粛していましたが、再開したいと 考えています。
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の 子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%			
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	100%			
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム(ペアレント・ トレーニング等)の支援を行っている	100%			
保護者への説明責任等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	100%			
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計画」 を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	100%			
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	100%			
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	100%			
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	100%			
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	100%			
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	40%	60%		コロナ禍以降当事業所の行事でさえ自粛して いました。再開したとしても地域住民を招待で きる規模のことはできるかどうか分かりません。現 在は、地域の団体に場所を提供するなどで少 しですが交流ができています。
非常時	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	100%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
等 の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	100%			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	100%			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	100%			
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	80%	20%		共有できていない事項については早急に作成 して共有したいと考えます。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	100%			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	100%			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果 (公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 ちびっこタイム品川

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%			面積基準以上の面積を確保している。
	②	職員の配置数は適切である	67%	33%		配置数的には問題はないが、資格の有無で欠けている。	職員配置基準上問題はないが、運営上必要な人員は欠けていた感があったため法人に要望している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		83%	17%	玄関、階段でのバリアフリー化はない。	品川区の施設であり、工事は難しいが工事要望は提出したい。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%			全職員が参画できる環境を整えていく。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	33%			保護者等の評価を真摯に受け止めて業務改善したい。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%				
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%			外部研修などに参加できる体制を構築して積極的に参加できるようにする。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%			法人と協議のうえ検討する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%				
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%				
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	100%				
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%					
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%				
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%				
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	50%		アレルギー、側彎症など、保護者に医師に行ってもよい課題・悪い課題について確認をとっている。	直接医療機関との連絡体制はないが、もし可能なことならば整えていきたい。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%			児童発達から上がってきている児童がほとんどなため、情報を得やすい。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	67%	33%			必要なことだと考えているが、現在はその体制はない。今後、必要ならば実施していきたい。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%			関係機関との情報交換の後、助言を受けられるシステムや研修があるのならば受けたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	17%	66%	17%	地域のNPO法人が行う外遊びへの参加を1度行った。今後検討。	コロナ禍以降、他との交流は避けていたが今後機会を設けていきたい。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	67%	33%			
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	83%	17%		ペアレントトレーニング自体は行っていないが、対応法、相談には日々支援を行っている。	体制が整うのであれば保護者支援も行っていきたい。
保	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	17%		契約時に行っている。	掲示板に掲示しており、いつでも説明できる。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	17%			コロナ禍以前に比べると多少減っているが必要であれば実施していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				
	③⑤	個人情報に十分注意している	100%				
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%			事業所の行事でさえ出来ていないので、地域の住民を招待する行事の開催は困難。必要ならば前向きに考える。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%			契約時に説明した後は周知されていない。事業所に備え付けているのでいつでも閲覧可能。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%				
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%				
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%			医師との連携は今後必要だと考える。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%			作成して共有する。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。